

第3章 まちづくりの基本構想

1 将来都市像

来てよし、住んでよし、育ててよし！

輝く諫早 夢かなうまち

「来てよし、住んでよし、育ててよし！ 輝く諫早 夢かなうまち」は、本市の多様な魅力(強み)と、そこに関わるすべての人の未来への希望を表現したものです。この将来都市像には、本市に対する愛着と誇りを育んでいただきたいとの願いが込められています。

本市の財産である豊かな自然と都市機能が調和した優れた生活環境、さらには、子育てや教育の充実といった「暮らしのバランスの良さ」は大きな強みであり、「来てよし」「住んでよし」「育ててよし」のすべてを体現する本市のまちの姿を象徴しています。

また、市民のまちへの愛着や誇りを育むとともに、その魅力を市内外に広く発信し、地域の活力と魅力向上につなげていく姿勢を表すものでもあります。

そして、「輝く諫早 夢かなうまち」という言葉には、市民一人ひとりが未来に希望を抱き、自らの人生を実現していけるまちであり続けたいという願いが込められています。

「来てよし、住んでよし、育ててよし！ 輝く諫早 夢かなうまち」
みんなで一緒に諫早市のまちづくりをはじめましょう。



基本目標 1

チャレンジできるまち

若者や女性をはじめ全世代が住み続けたい、今後住んでみたいと思える魅力的で活気のあるまちを創る。

基本目標 2

産業が活力を生み出すまち

企業誘致と地場産業の振興を両輪で進め、仕事に生きがいを感じることができる雇用を創出する。

基本目標 3

人を育む学びのまち

市民誰もが目標に向かって学び続けられる、多様な学びの場と機会に恵まれたまちを創る。

基本目標 4

誇りと賑わいのあるまち

諫早の魅力をみんなで磨き、発信することで、市民は誇りを持ち、活気のあるまちを創る。

基本目標 5

持続可能なまち

誰もが安心して便利に暮らせる機能的なネットワーク型のまちの基盤を創る。

3 目標人口

諫早市は令和17年に人口約13万人を目指します

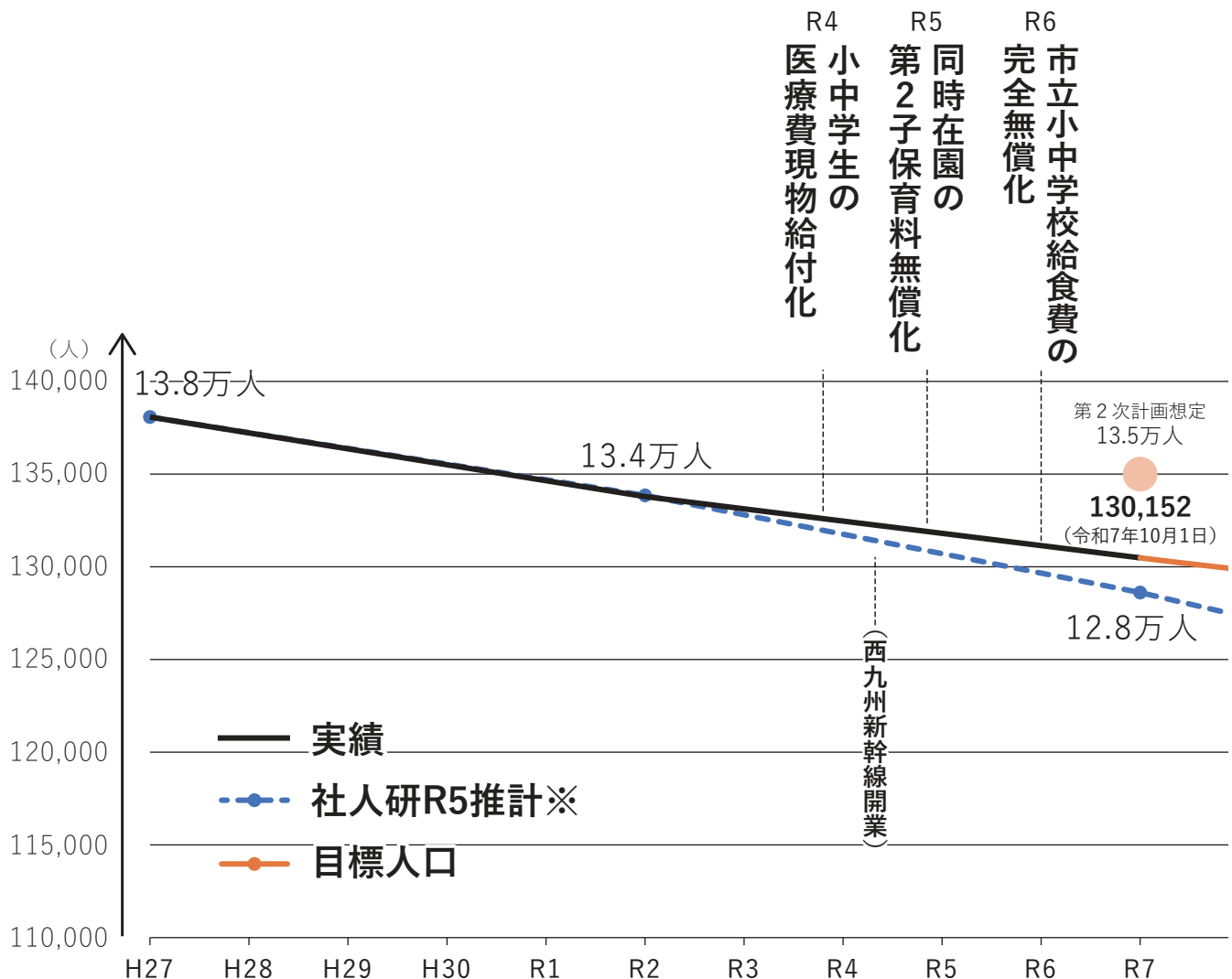
本市の人口は、平成12年をピークとして減少傾向にあり、令和7年国勢調査では、130,152人※となっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、本市の人口は、全国の多くの市町村と同様に今後も減少が継続と予想されています。

しかしながら、本市においては、令和4年度以降、子育て支援策の充実や相次ぐ企業誘致の進展のほか、住環境の整備に向けた都市計画制度の見直しも予定しており、まちづくりにおける大きな転換期を迎えています。

こうした基盤を活かし、今後さらに定住促進策やUIターン施策を強化することで社会動態の改善を図ります。あわせて、子どもを産み育てやすい環境づくりを進め、出生数の増加につなげるとともに、介護予防や健康づくりの推進による健康寿命の延伸を図ることで自然動態の改善に努めるなど、令和17年には人口約13万人の維持を目指します。

※総務省が公表する人口速報集計結果と異なる場合があります。

目標人口達成のイメージ



※国立社会保障・人口問題研究所推計値

目標人口の達成に向けた取組の方向性

		市内在住者	市外在住者	外国籍の方（市内外）
社会動態対策	転出抑制	<ul style="list-style-type: none"> ●若者に求められる仕事づくりや子育て環境などの充実 ●市内企業の紹介とマッチングの創出 ●県内他市町への転出抑制に向けた土地利用・住宅施策など 		<ul style="list-style-type: none"> ●在住外国人（留学・技能実習等）の定住促進（受入体制の整備）
	転入抑制		<ul style="list-style-type: none"> ●誘致企業等と連携した市外からの移住・定住促進 ●関係人口（ふるさと住民）の増加による将来の移住促進 	<ul style="list-style-type: none"> ●誘致企業・地場企業と連携した外国人人材の受入強化
自然動態対策	出生数増	<ul style="list-style-type: none"> ●結婚支援、子育て環境の充実、医療体制の充実、教育の質向上などによる出生数の増加 		
	死亡数減	<ul style="list-style-type: none"> ●介護予防や認知症対策などによる健康寿命の延伸 		

計画期間中の主なまちづくり事業

京セラ(株)生産拠点開設

島原道路沿線における大型商業施設の立地※民間事業

諫早平山産業団地分譲用地完成

「新しい都市計画」の実現による土地利用政策の転換

